

緑山バイオマス材生産モデル事業の概要

緑山バイオマス材生産モデル事業(事業イメージ)

市有林において、早生樹を活用した低コスト、15年サイクルによる循環的なバイオマス生産に着手（R1～）

早生樹が15～20年で成長する
前提で、市有林（緑山:270ha）
を段階的に早生樹へ移行



**15年間サイクルで伐採、再造林
を目標とする実証**

目標：270ha ÷ 15年 = 18ha/年

+

適宜、柔軟な最適手法の検討

例・植林密度を変化
・一部を用材エリア施業
・他樹種の植林、混合育成
・施肥の実施
・私有林等、他地域への展開
・森林機能の最大発揮の施業・
保育手法検討 ほか



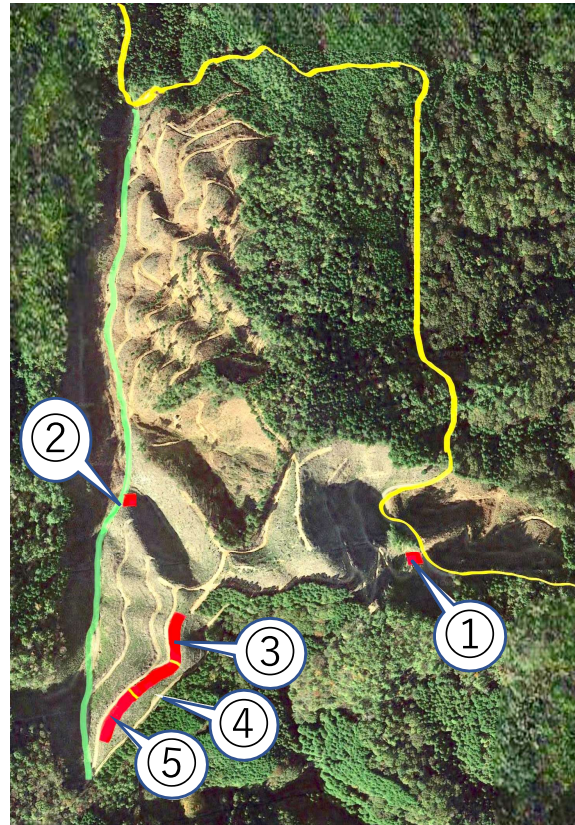
市有林（緑山:270ha）

1年目 (18ha)	2年目 (18ha)	3年目 (18ha)
6年目 (18ha)	5年目 (18ha)	4年目 (18ha)
7年目 (18ha)	8年目 (18ha)	9年目 (18ha)
12年目 (18ha)	11年目 (18ha)	10年目 (18ha)
13年目 (18ha)	14年目 (18ha)	15年目 (18ha)

毎年段階的に早生樹へ移行

出典：第1回周南市木質バイオマス材利活用推進協議会資料より

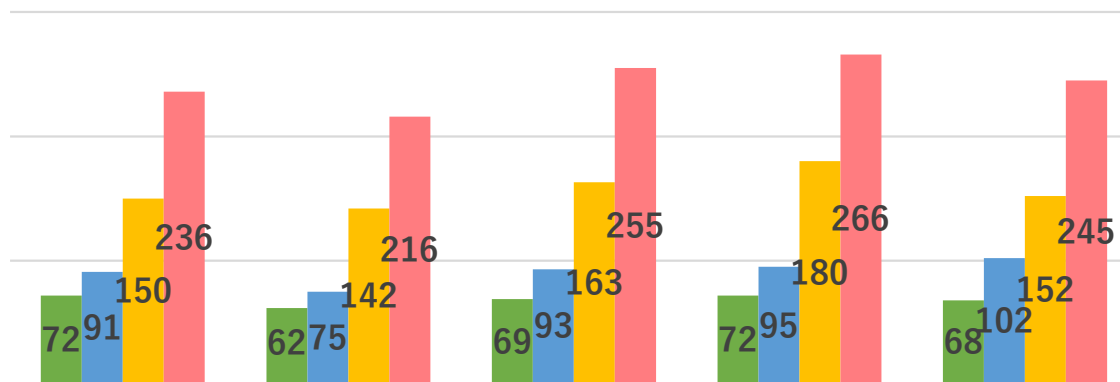
緑山バイオマス材生産モデル事業のプロット調査概要



令和2年度（令和3年2月）にコウヨウザンを造林した計5地点でプロット調査を実施。
令和3～6年度の平均樹高等を比較した。

緑山バイオマス材生産モデル事業のプロット調査概要

A R3～6年度平均樹高比較（cm）



B 枯死率比較

調査地 年度	プロット① 1,500本植	プロット② 1,500本植	プロット③ 1,500本植	プロット④ 1,000本植	プロット⑤ 2,000本植
令和3年度	0%	17%	1%	5%	7%
令和4年度	0%	0%	1%	5%	0%
令和5年度	0%	0%	1%	5%	2%
令和6年度	0%	0%	1%	5%	1%

C 食害被害

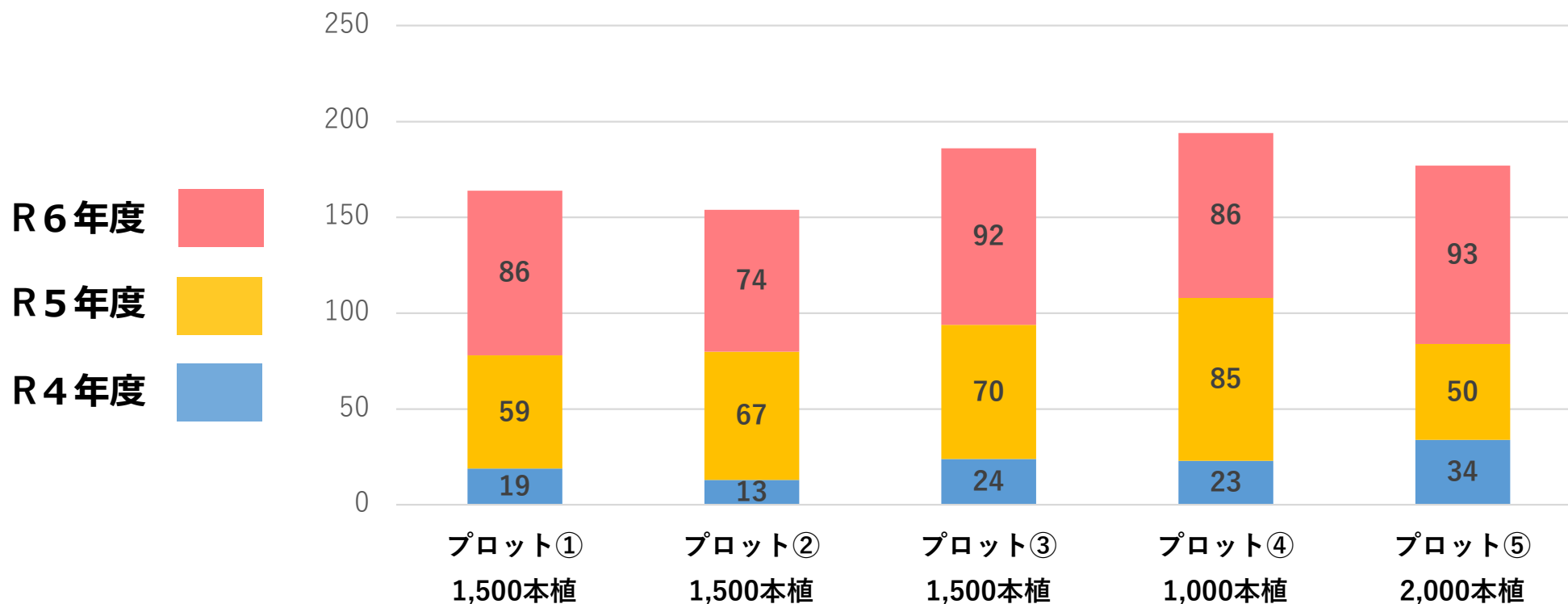
令和3～6年度	0%	0%	0%	0%	0%
---------	----	----	----	----	----

周南市農林整備課 調べ

プロット②は日当たりは良いが、他と比べ水が滞留しづらい箇所のため成長量が小さいと推察。

緑山バイオマス材生産モデル事業のプロット調査概要

R4～6年度平均成長量比較（cm）



周南市農林整備課 調べ

各調査地において年数経過と共に成長量が増加している。